

あなたの手を、世界の誰かに。

2017年1月1日

セカンドハンド通信 NO.87



公益社団法人 セカンドハンド 本部事務局 TEL&FAX 087-861-9928
〒760-0055 香川県高松市観光通1-1-18
E-mail:jimukyoku2hand@yahoo.co.jp http://2nd-hand.main.jp/



医療支援



カンボジア・スヴァイリエン州 医療プロジェクト

2014年2月より3年間、JICA草の根技術協力事業として高松市と協働で行ったスヴァイリエン州でのプロジェクトが2017年2月に終了します。



プロジェクトについてちょっとおさらいしてみよう！

経緯

2007年より徳島県の（特活）TICOと協働で首都プノンペン市における救急医療体制の構築を目指して、日本や現地での研修や救急隊の運営費支援を行ってきました。この経験を活かし、スヴァイリエン州で2014年2月よりプロジェクトを開始。

目標

カンボジア人によってスヴァイリエン州における救急医療分野が強化される。

スヴァイリエン州



スヴァイリエン州は首都プノンペンから南東に105km、ベトナムとの国境に接する地域で人口約61万人です。4つの経済特区があり、日本を含む外国資本の工場が多数あります。貨物輸送や工場労働者の通勤で交通量が増加し、事故も増えています。また、国道1号線（アジアハイウェイ）の整備・拡張で、今後もこうした状況は加速度を増すと考えられます。

JICA草の根技術協力事業

日本のNGO、大学、地方自治体及び公益法人の団体等が、これまで培ってきた経験や技術を活かして企画した「途上国への協力」をJICAが支援し、共同で実施する事業です。



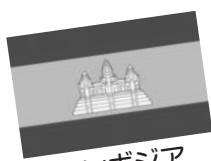
4.5ページでは、3年間の活動とその成果を詳しく解説します！そしてこのプロジェクトの終了報告会＆応急処置法講習会のイベントを2月に開催予定！詳細は決まり次第セカンドハンドのウェブサイト等でご案内します！



「セカンドハンド」は、ボランティアが主体となって運営する国際協力団体です。主な支援先はカンボジア、学校建設や奨学金支援などのほか、自立・医療・孤児院支援を行っています。資金源は皆様のご寄付とチャリティーショップ（提供された品物を無報酬のボランティアスタッフが販売）。一人ひとりの力は小さくても集まれば大きな力となるをモットーに活動しています。世界の誰かのために、あなたの力を貸してください。

商品提供やご寄付など、支援してくださった皆様へのお礼とご報告は、このニュースレターにかえさせていただきます。

教育支援



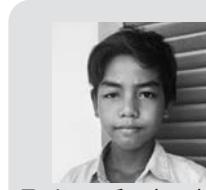
チョム・ノブ・コキ小学校 新校舎完成!



新校舎の前でサッカーを
楽しむ児童たち



トイレ（外で用を足すのを
嫌がっていた女の子たちも
個室を利用できるようになりました）



スノン・チャムロムくん
12歳 4年生

校舎が新しくなったので、
教室で楽しく勉強しています。
教室はとても快適で、皆
きれいに使っています。将来
はお医者さんになりたいので
一生懸命勉強しています。新
しい校舎を建ててくれてあり
がとうございました。

カンボジアの照りつける暑さやスコールなどに左右されることなく、子どもたちが安心して、授業に集中できるようになったことは、学校に通う子どもたちだけでなく、子どもたちを毎日送りだす家族にとっても大変喜ばしいことです。

今後、地域住民同士で協力し、学校までの道路の補修も進めていくそうです。アクセスも良くなり、親も子どもたちもより安心して学校に通える日が一日も早く来るといいですね。

地域住民も盛土作業を行い、一緒になって汗を流してつくったこの学校が、少しでも長く愛され、カンボジアの将来を支える人材が育つことを願います。

2017年2月中旬頃にチョム・ノブ・コキ小学校の竣工式に出席します。
竣工式の様子は次号でお届けいたします。

※当初の計画では貯水タンクの設置も予定していましたが、貯水タンクについては、現地NGOにより支援可能ということがわかったため、トイレの改修、学校図書、浄水設備、ごみ箱の設置支援へと変更しました。

連携団体：(公社) シャンティ国際ボランティア会
支援金：5,846,000円



カムロブエ・コミュニティスクール ついに完成!

カムロブエ・コミュニティスクールでは、2015年7月から校舎の修繕工事が進められてきましたが、無事に屋根、窓、ドア、床、壁のすべてが一新されピカピカの校舎に生まれ変わりました！投入した新品の机40台も大活躍です。

全校生徒600名のうちの一人、ブリトリアさん（10歳）は「綺麗な校舎になってとても気持ちいいです。」と嬉しそう。また、先生からは「薄暗かった校舎の中も、今は窓ガラスが取り付けられ、光が入ることで明るくなりました。レンガや土の上に直に座るしかなかったのが、床がはられ、机も取り付けられ、ノートも取りやすく勉強に集中できる環境が整いました。近隣の村からこの学校に通う子が増えるほどです。本当に感謝しています。」とお話をいただきました。

校舎の他に、建設途中で止まっていた教員住宅も完成し、以前は校長先生しか教師がいない時期もありましたが、現在では教員免許をもった正規の教師3名と講師4名の計7名に拡充しました。保健施設も同様ですが、僻地ではスタッフの住宅やトイレ、井戸などの住環境が整わなければスタッフの配置と定着はかないません。教育の場所であるだけでなく、地域の活動の拠点となるのが学校です。この学校が地域の中心となり様々な波及効果をもたらすことが期待されます。

[文：(特活) TICO]



完成した校舎と子ども達

連携団体：(特活) TICO

支援金：1,800,000円（カムロブエ・コミュニティスクール／ムエンバ・プライマリースクールの2校舎の合計）

緊急支援



エクアドル地震

エクアドル地震の被災地であるカノアの漁協組合へ漁網など漁業に必要な物品（約20万円分）を購入し寄付しました。カノアでは、地元住民のほとんどが漁業で生計を立てており、避難先のテントから海に出て、働いている方もいます。地元住民の活気向上と町の復興を願い、漁業組合への支援へとさせていただきました。支援を受けた漁師からは「日本の皆様からの支援に深く感謝します。いただいた魚網でエビ漁をします。皆様からの支援のおかげで私たちは少しずつ前へ進むことができます。」とのコメントをいただいています。

みなさんのご協力のもと、青年海外協力隊員としてエクアドルで活動している私たちの強みを活かし、被災地へ直に支援を届けることが出来ました。復興

活動は続いているが、未だにテント生活をされている方もいます。安心、安定した生活を送るために今後も支援が必要な状態ですが、街の風景、人々の暮らしは確実に前に進んでいます。

日本でエクアドル製品をみかけたら、ぜひ手にとっていただき、思い出していただければ嬉しいです。みなさんと一緒に支援できたことに感謝いたします。この度のご協力、本当にありがとうございました。

[文：内藤智子 青年海外協力隊員・理学療法士]



魚網配布の様子

エクアドル地震緊急支援金の受付は11月末で終了し、総額392,592円を現地に送金いたしました。

国際協力を学ぶ講義「国際協力論」 香川大学&徳島大学

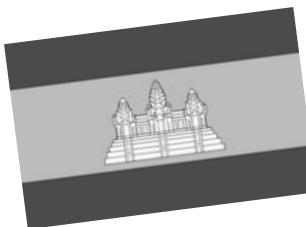
JICA四国と大学が連携し、国内外から講師を呼ぶ講義「国際協力論」は、2006年に四国4県で実施スタートしました。2016年度は、香川大学、徳島大学両校で、後期（10月～2月）の科目として、セカンドハンドがコーディネート団体（調整役）となり実施しています。

講師は国内外のNGO団体の代表、自治体や企業の国際協力分野の担当者、海外ボランティア経験者など多彩で、全15回の講義を通して国際協力を様々な角度から学ぶことができます。受講生の中には、この講義をきっかけにNGO団体でボランティアを始める学生や、卒業後の進路として国際協力分野を選択する学生もいます。香川大学で学生を対象に実施した初回アンケートでは、半数以上の学生が国際協力や海外に興味があると答え、中には「国際協力にずっと興味があって、いつか行動に出よう

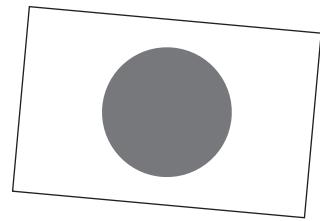
と思っていたので、この授業を通じて、チャレンジする勇気を付けようと思っています！」と回答する学生もあり、この講義への期待の高さが伺えました。



徳島大学国際協力論の様子



2014年2月～2017年2月 救急医療における人材育成を通した国際協力(カンボジア)プロジェクト ～プロジェクトの3つの成果～



人を育てる

～カンボジア人によるカンボジア人のための救急医療～



救急医療の技術の定着、向上のためには、カンボジア人の指導者が育つことが重要です。本プロジェクトでは、スヴァイリエン州の医療従事者の中から、意欲や技術力(テストでの判定)、理解力やリーダーとしての資質等、総合的に見て選出した4名をリーダーとし、2015年5月に日本で指導者の育成を目的に研修を実施しました。

2016年11月、どの程度の技術や指導力が身についたかを評価するため、州内の医師・看護師らを対象にした研修プログラムを4名で企画・運営する課題を出しました。日本の専門家が満点と評価するほど、準備から内容まで充実した内容でした。

また、本プロジェクトでは、単なる「ER(救急救命)の医師」ではなく「州の救急医療のリーダー」という位置づけをしたことで、彼ら自身の自覚・自信に繋がっただけでなく、行政(保健局)が彼らの働きかけを通じて現場の声を重要視するようになりました。行政との連携を深めることは、「継続性」という点でも、今後重要になってきます。



応急処置法を広める

～傷口を水で洗うのは○!でも魚醤をつけるのは×!～

地方ではすぐに病院にアクセスできません。だから、応急処置は重要です。カンボジアの地方では、切り傷には魚醤(しょうゆ)や塩、火傷には歯磨き粉や牛の糞を塗ると治るといった誤った処置を信じ、実行する人が未だに大勢います。「傷はきれいな水で洗うこと」などの基本的な応急処置法についてイラスト入りのハンドブックを用いて住民向けのワークショップを実施しました。

医師やスヴァイリエン州の寺の僧侶らにも協力していただき、学校、工場などでワークショップを実施し、多くの住民に正しい処置についての知識を身につけてもらいました。

また2016年6月から州全域と隣の州、さらにベトナムにまでリスナーがいるFMラジオ局の「仏教と社会」という番組で月～土曜日は毎日10分、日曜日は生放送で1時間の応急処置法のコーナーを設けて放送しました。



●カンボジアの仏教文化

カンボジアは「仏教の国」と言っても過言ではありません。宗教の選択は自由なので、近年キリスト教徒やイスラム教徒も増えていますが、異教徒の心根にも仏教の教えがあります。週に1回はお寺に集まる行事があり、祭事にはお坊さんを呼んで読経するのが一般的で、お坊さんはとても尊敬され、信頼されています。今回、2001年の職業訓練プロジェクトで協力していただいたブレイチュラ寺と再びコラボし、州内の学校でお坊さんたちに応急処置法を広めていただきました。学校や地域との連携がすんなりできるのも、お坊さんたちのおかげでもありました。

環境を整える

～技術があっても道具がないと始まらない!～



提供した資機材

いくら知識と技術力が高まっても、最低限必要な道具がなければ適切な処置はできません。救急車はあるのに酸素ボンベしか載っていない、訓練用の人形がないため、心臓マッサージをしたことがない医療従事者が多い、など日本の常識からは想像し難い環境の中で、州の医療従事者は救える命を救いたいと日々奮闘していました。そんな彼らの為に、スヴァイリエン州にある5つの施設で救急対応ができる体制を整えるべく、必要な資機材を寄贈しました。日本の救急車のレベルには程遠いですが、「患者を急いで運ぶ車」が、「観察と適切な処置をしながら搬送する救急車」へと変わりつつあります。



救急車



スヴァイリエン州保健局
局長 口タ氏

高松市、セカンドハンドが協力して実施したJICA事業の3年間は、機材供与だけでなく、技術の指導なども行ってくれ、大変有意義な事業でした。この事業の全体の成果としては、救急体制のレベルアップがあげられます。また、研修を受けた医療従事者たちの態度にも変化がありました。もちろん、技術も向上しており、全体的にレベルアップしたと言えます。

このようなすばらしい事業を支援してくださった、高松市長をはじめとした高松市の皆さん、高松消防局、セカンドハンドのご支援に、心から感謝しています。



医療技術は日々進歩しているけれど、救命措置の基本技術は大きく変わりません。このプロジェクトは、その知識と技術をスヴァイリエンの医師たちがこれからも継続して伝えていくための基礎を固めた取り組みです。ご協力いただいた皆様、支えてくださった支援者の皆様に感謝申し上げます。

学校でできる国際協力♪

学校法人安城学園

岡崎城西高校

愛知学泉大学・短期大学



岡崎城西高校英語部の皆さん



カンボジア支援バザーの様子

岡崎城西高校英語部顧問の小島先生の呼びかけにより、愛知県でカンボジア支援バザーが行われ、その収益金80,066円をセカンドハンドに寄付してくださいました！

小島由美 先生（岡崎城西高校 英語部顧問）

18年前、創設者である新田恭子さんの新聞記事をきっかけに、セカンドハンドの活動を知りました。顧問をしている英語部での活動にボランティアを取り入れたいと思い、セカンドハンドへの支援を始めました。今年度は、愛知学泉大学祭でのカンボジア支援バザーなど、英語部としてカンボジア支援バザーを計4回開催することができました。回を重ねるたびに、生徒たちが積極的に関わるようになっていき、バザーで商品を購入してくださるお客様にも「ぼくたちは、今年からカンボジア支援の活動をはじめました。」と活動について丁寧に説明するようになりました。この活動を通し、自分たちの持っている心の余裕を分けてあげられる姿勢が培われたら嬉しいです。

菅瀬君子 教授 (愛知学泉大学・短期大学 学生会・学泉祭実行委員会顧問)

今回、系列校である岡崎城西高校の小島先生からお話があり、学泉祭実行委員会が中心となってバザーを行いました。カンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができる学校が1棟でも多く建設されることをみんなで願い協力させていただきました。ボランティア活動は継続していくことが大切です。来年も再来年もずっとその先も、みんなでカンボジアの子どもたちのための支援活動を引継いでいきたいと思います。

●身近なもので国際協力！ 使用済み切手と書き損じハガキのご報告

●使用済み切手（約35kg）を28,000円で買い取っていただきました！

封筒やハガキに貼ってある使用済み切手を、周囲5mmを残した状態で集めています。

●書き損じハガキ（約3,000枚）を郵便書簡2,157枚に交換しました！

ハガキは1枚からでも、どんなに古いハガキでも、往復ハガキ、印刷ミス、もちろん未使用のものも大歓迎です。セカンドハンド通信発送時に使用する郵便書簡や、切手と交換します。

●フェアトレード商品（カンボジアのクラフト品）のオンライン販売

- ①URL <https://2ndhand.theshop.jp> の入力
 - ②右のQRコードの読み取
 - ③セカンドハンドのウェブサイトの「フェアトレード商品購入はこちら」のリンクをクリック
- のいずれかの方法でアクセスできます。順次アップデートしていきますので、ぜひ一度ご覧ください。



通販ページのQRコード。
スマートフォン等で読み取ってください！



SPECIAL THANKS



10/1～11/30までの3ヶ月間にご寄付などでご寄付くださった方々です。その他にも様々な形でご協力くださった皆さまありがとうございました。

【寄付者】栗飯原治仁、青野千恵子、赤尾幸子、家次加奈、伊賀憲子、入江治子、愛知学泉大学大学祭実行委員会・岡崎城西高、鳴門市賀川豊彦記念館事務局／NPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会、柏原裕美、川崎多恵子、河田久仁枝、河原崎晴美、木村明仁子、酒井恵津子、シエリン公子、白川ふみ、大光菊江、高木佳美、竹内美香、竹田万里子、只野シゲ子、塚田泰代、鳥かい歯科医院、中澤力、西川秋美、沼田章、のぞみ総合法律事務所、堀良子、升崎里美、松原志乃、真鍋雅穂、マンスフィールド雪江、御影池淑子、株式会社三木山田清掃、溝渕広史、美濃吉広、宮本宏子、宮本明宣、山下英城、山本文子、横田千春、吉田正強、吉田治代、吉本房子、若杉淳子

【その他】株式会社スワニー、高松ボランティア協会、西條一美、永井敬子、天勝丸亀店、和カフェぐう 〈敬称略〉



各地でひろがるセカンドハンドの輪

セカンドハンド北海道



12月3日、札幌駅前通地下歩行空間で行われた「北海道国際協力フェスタ2016」にセカンドハンド北海道も1年ぶりで出展しました。寒い冬の間利用者が多い地下道、この日も多くの通行人が足を止めて、ステージや活動紹介パネル、ブースでの買い物を楽しんでいました。初めてお手伝いに参加してくださった方、いつも出展の際には足を運んでくださる方、久しぶりにお会いした方…さまざまな人々との出会いとご縁に改めて感謝です。

セカンドハンド関東

10月16日（日）、埼玉県川口西公園で開催された「ボランティア見本市」に出店し、カンボジアの手作り雑貨（フェアトレード商品）の販売を行いました。天候に恵まれたものの、売り上げはなかなか伸びず苦戦…イベント終了時間まで粘り、何とかある程度の売り上げを達成することができました！次回は売り上げ増を目指します！セカンドハンド関東は小さなチームですが、2017年も自分たちができる活動を前向きに、一つ一つ行っていきたいと思っています！



セカンドハンド・ユース

10月22日（土）、香川県立保健医療大学の大学祭で冷やしパインを販売しました。雨が降り、気温もぐっと下がったので、冷やしパインが売れるのかとても心配でしたが、100本近く売り上げることができました！

また、11月6日（日）に香川大学直島地域活性化プロジェクトとのコラボイベントを行い、直島の「和カフェぐう」でセカンドハンドが扱うカンボジアのクラフト品を販売しました。直島での活動は初めての試みだったので戸惑うこともありましたが、「和カフェぐう」を訪れた人たちと交流ができ、とても充実した時間を過ごすことができました。

これらのイベントを通し、より多くの人にユースの活動を知ってもらえるきっかけになったと思います。これからも人との交流を大切にしながら活動していきたいです。



好評だった冷やしパイン♪

第17弾!!

「どんな人達がボランティアしているの～？」 ～2016年度新規ボランティア編～

2016年から関わってくださるようになったボランティアのお二人をご紹介♪



福島 美代子さん(70代)

（高松店のお店番ボランティアとして活躍中！お客様の立場に立って話を聞く丁寧な接客をさせていただきます。）

40年間勤めた会社を退職し、長い間勤めができた感謝の思いから、何か役に立つことはないか、とボランティア活動を探していました。前々から、友達にセカンドハンドのボランティアに誘われていたことを思い出し、一緒に発送作業に参加してみました。

今は週2日、お店番をしています。自分と同じ年代のお客さんとのコミュニケーションが面白いし、他のボランティアの皆さんとも気が合うので、楽しく続けられています。お客様も「せっかく来たから何か買っていこう」と思ってくれているし、提供する人もみんなボランティア精神で来てくれている良い人たばかり！自分はお客様と楽しくおしゃべりしているだけだけど、それがどこかで誰かの役に立っている、というのがすごくいいと思います。今は充実した毎日を過ごしています！



棚田 栄美さん(20代)

（普段は公務員！高校時代にアナウンス部で全国大会に出場した経験を活かし、イベント時のアナウンスをやってくださっています！）

仕事に慣れて気持ちに余裕ができたので、空いた時間を有效地に使いたいと思い、ボランティアをやってみることにしました。セカンドハンドのボランティアは、自由な雰囲気なところがすごくいいです！アルバイトと違い、自分の生活リズムに合わせてやりたい時にやりたいことができる所以、無理なく続けられています。

セカンドハンドで一番楽しいのは、普段は関わらないような方とお話ができます。一緒に作業をするボランティアや、お買い物に来たお客様といろんなお話しできるのがとても楽しいです！「ボランティアをやっている」というと「すごいことをやっている」と思われるけど、ボランティアは大げさなことではない、ということをもっとみんなに知ってほしいです。私も知り合いに広められたらと思っています！



